

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和 5年 5月 25日	
岐阜県知事 古田 肇 殿	
提出者 住 所 岐阜県飛騨市古川町向町二丁目10番50号 氏 名 アルプス薬品工業株式会社 代表取締役 牛丸 理	
電話番号 0577-73-7268	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	アルプス薬品工業株式会社 上野工場
事業場の所在地	岐阜県飛騨市古川町上野8番地
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	16:化学工業
②事業の規模	48億8000万円
③従業員数	56人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり

(日本工業規格 A列4番)



(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
別紙2のとおり			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和 4年度実績）】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	排 出 量	別紙3のとおり	t
	(これまでに実施した取組) ・製造工程における、廃液の蒸留・分液による有機溶媒の回収再利用。 ・廃液の自社活性汚泥施設処理による排出量の削減。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	排 出 量	別紙3のとおり	t
	(今後実施する予定の取組) ・製造工程における、廃液の蒸留・分液による有機溶媒の回収再利用。 ・製造工程における、溶媒回収率のUP・脱溶媒化の検討、実施。 ・原料の包装資材の通缶化、再利用可能な資材の検討。 ・廃液の自社活性汚泥施設処理の能力UP及び負荷の低減。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・金属を分別し処理量を削減。 ・廃液類を発生工程より分別し、中間処理施設(焼却炉)で処理。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・廃液類の発生工程・成分をデータ化して製造品目毎に分別を実施していきたい。		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ - 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（ 令和 3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃液類	-
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	460.7 t	- t
	(これまでに実施した取組) ・ 廃液類の一部を自社焼却炉にて自社中間処理。 ・ 焼却残渣(燃え殻)は最終処分業者で埋め立て処分。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃液類	-
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	600 t	- t
	(今後実施する予定の取組) ・ 引き続き、廃液類の一部を自社焼却炉にて自社中間処理。 ・ 引き続き、焼却残渣(燃え殻)は最終処分業者で埋め立て処分。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ - ）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) ・別紙3のとおり		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	全処理委託量	別紙3のとおり	t
	優良認定処理業者への処理委託量	別紙3のとおり	t
	再生利用業者への処理委託量	別紙3のとおり	t
	認定熱回収業者への処理委託量	別紙3のとおり	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	別紙3のとおり	t
	(これまでに実施した取組) ・別紙3のとおり		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	全 処 理 委 託 量	別紙3のとおり	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	別紙3のとおり	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	別紙3のとおり	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	別紙3のとおり	t
	認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への処 理 委 託 量	別紙3のとおり	t
	(今後実施する予定の取組) ・別紙3のとおり		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

様式第二号の八(第八条の四の五関係) 別紙1

当該事業場において現に行なっている事業に関する事項

④産業廃棄物の一連の処理工程

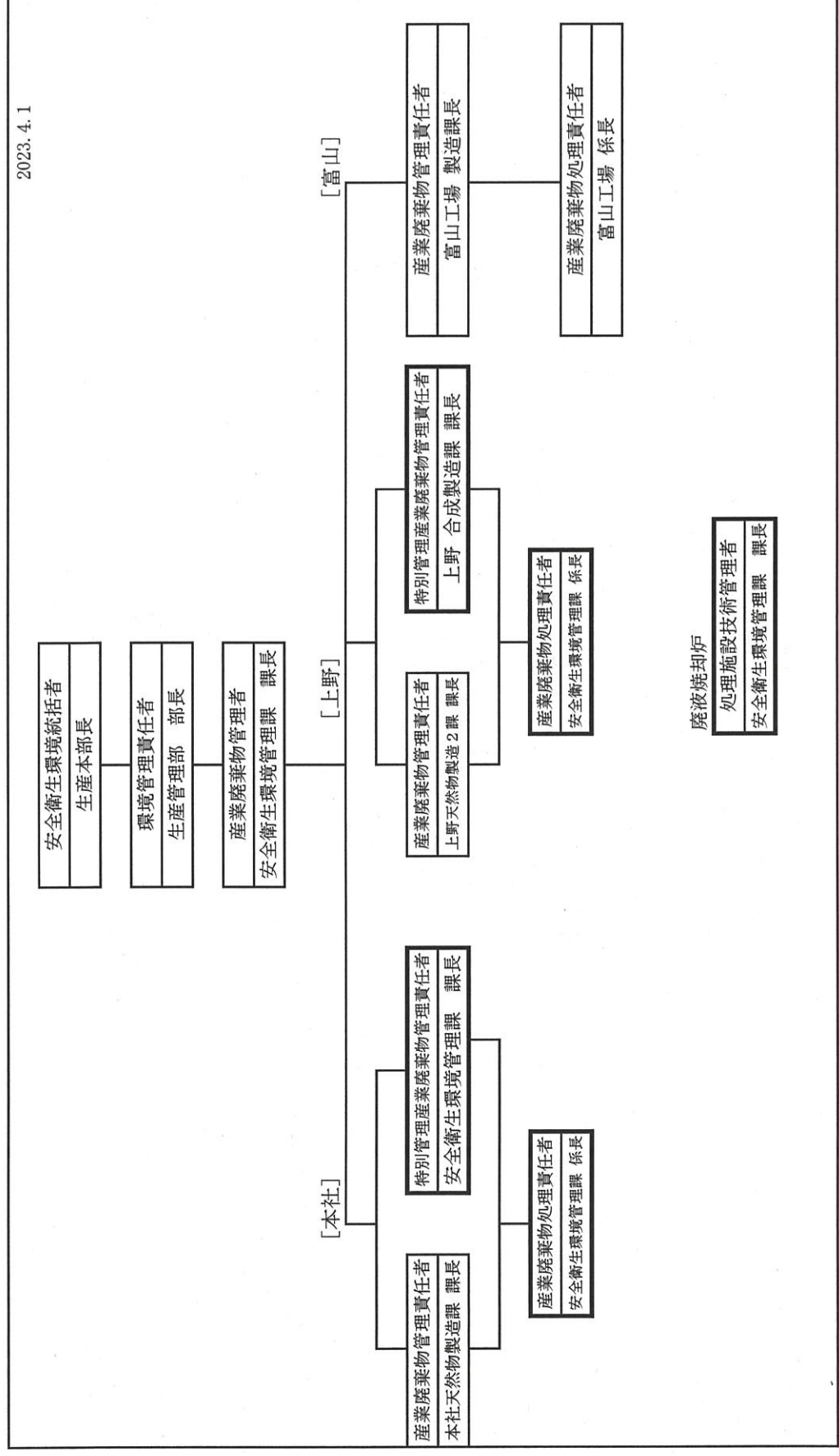
薬医薬品原料製造

医薬品原料製造工程	→	動植物性残渣	→	再生利用業者に委託し堆肥化。 → 一部、中間処理業者に委託し焼却後埋立処分。
		汚泥	→	中間処理業者に委託し焼却後埋立処分。 → 一部は中間処理業者にて生物処理を実施。
		廃油	→	中間処理業者に委託し燃料化または焼却後に埋立処分。
		廃酸	→	中間処理業者に委託し中和後燃料化または焼却後埋立処分。 → 一部自社焼却処理施設にて焼却処分。
		廃アルカリ	→	中間処理業者に委託し中和後燃料化または焼却後埋立処分。
原料・製品梱包資材	→	廃プラスチック類	→	中間処理業者に委託し焼却後埋立処分。 → 一部、中間処理業者に委託して破砕・選別後埋立処分。
製造設備・備品	→	金属屑	→	中間処理業者に委託し破砕・選別後に埋立処分。
品質管理試験工程	→	ガラス屑	→	中間処理業者に委託し破砕・選別後に埋立処分。
運搬材・その他	→	木屑	→	中間処理業者に委託し破砕・選別後に堆肥化。
自社活性汚泥処理施設	→	汚泥(脱水)	→	中間処理業者に委託し焼却後にセメント原料として再資源化。 → 一部最終処分業者に委託し埋立処分。
自社焼却処理施設	→	燃え殻	→	中間処理業者に委託しコンクリート固化後に埋立処分。
蛍光灯(水銀含有製品)	→	蛍光灯	→	中間処理業者に委託し破砕後、水銀最終処理場にて最終処理

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

アルプス薬品工業株式会社

産業廃棄物管理組織



【前年度 令和3年度 実績】							
産業廃棄物の種類	動植物性残渣	金属屑	ガラス屑	木屑	燃え殻	蛍光灯	
全処理委託量	5485.05	0.19	0.39	21.66	0.00	0.06	
優良認定業者への 処理委託量	0.00	0.19	0.39	0.00	0.00	0.06	
再生利用業者への 処理委託量	5485.05	0.00	0.00	21.66	0.00	0.00	
認定熱回収業者への 処理委託量	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
認定熱回収業者以外への 処理委託量	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

(これまでに実施した取組)

- ・汚泥のサーマルリサイクルの推進。
- ・廃プラスチックのサーマルリサイクルの推進。
- ・動植物性残渣の堆肥化推進。
- ・動植物性残渣の中間処理後の再資源化推進。

【 目標 】							
産業廃棄物の種類	動植物性残渣	金属屑	ガラス屑	木屑	燃え殻	蛍光灯	
全処理委託量	6000.00	0.50	2.00	30.00	0.30	0.20	
優良認定業者への 処理委託量	0.00	0.50	2.00	0.00	0.30	0.20	
再生利用業者への 処理委託量	6000.00	0.00	0.00	30.00	0.00	0.00	
認定熱回収業者への 処理委託量	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
認定熱回収業者以外への 処理委託量	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(今後実施する予定の取組)							
・汚泥処理の最終処分施設への搬出率の低減及びサーマルリサイクル率の向上。							
中間処理後の再資源化率の向上。							
・廃プラスチックのマテリアルリサイクルの検討、サーマルリサイクル率の向上。							